

新春のごあいさつ・2014年1月



行方市長 鈴木 周也

明けましておめでとうございます。

市民の皆さまには、夢と希望に満ち溢れた輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、台風26号の影響により、市内の広い範囲に土砂崩れや崖崩れが発生したほか、家屋や道路の損傷、農業などにも甚大な被害をもたらしました。これらの早期復旧に向け、現在、最優先で取り組んでおりますのでご理解ご協力をお願いいたします。

もういニユースとしましては、2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定しました。スポーツに対する関心が一層高まりつつある中、今年は、子ども達に対する強化策やスポーツ少年団の指導者を対象とした研修・交

流事業を推進していきたいと思います。また、市民が気軽にスポーツに親しむための施策の充実を図ってまいります。

日本人の食文化「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。行方市においても行方産の農畜水産物を活用した食育に力を入れております。今後とも、児童生徒への農業体験や水産体験教室などを通じて地元産の食材に理解を深めていただくとともに、将来的には食生活改善とあわせて生活習慣病の予防にもつながることであり、食卓において「和食」を見つめ直していかねばならないと考えています。

さて、私が重点事業に掲げているマル福の拡充につきましては、先月の定例議会におきまして、議会の承認をいただき、26年度から、支給の対象を中学3年生まで拡大するとともに、これに対する所得制限の撤廃についても決定しました。今後、子育て世代の負担軽減が期待されるとともに、これからも行方市に住み続けていただけるよう企業誘致を積極的に進めるなどして雇用創出に努めてまいります。

年頭にあたり、皆さまのご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、新年のごあいさついたします。



行方市議会議長 高柳 孫市郎

明けましておめでとうございます。

市民の皆さまには、平成26年の輝かしい新春を健やかに迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

2013年は、国内でさまざまな出来事がありました。異常気象による各地での集中豪雨など、安全で安心な生活を望む私たちにとって憂慮すべきことでした。特に、10月16日の台風26号は、行方市に甚大な被害をもたらしました。その復旧復興に向け、市を挙げて全力で行っているところです。

政治においてわが国では、一昨年暮れの衆議院解散総選挙の結果、自民党が政権を奪還しました。国の債務残高が1000兆円を突破するなど、国の経済が依然として厳しいとされる中、

アベノミクス効果など安倍政権が打ち出している経済政策による財政改革等への期待が望まれるところです。

行方市においても、合併8年が経過する中、3代目の鈴木新市長が誕生し、新たな市政運営がスタートいたしました。行方市は、社会基盤の整備やその他の課題解決のため、厳しい財政状況の中で政策を選択・推進しています。そこで、市議会としても本格的な地方分権時代を視野に入れ、効率的な行政運営の中から必要な事業を実現するため、広範にわたり議会に与えられた役割を果たしていかなければなりません。

市議会は、皆さま方の代弁者として「市民のための行財政改革」や「誰もが将来にわたって、安心して暮らせる」まちづくりに向け、精一杯の努力をさせていただきます。今後とも、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、今年一年が、市民の皆さまにとりまして幸せ多い年でありますようお祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

